

各家庭に、南相馬市から配付された放射線量計!

はらまち九条の会 検索 で、活動の様子や会報の全号を見ることができます。



# 九条はらまち

## 「はらまち九条の会」会報 No.191

2012(平成24)年 7月 1日(日)発行

◆まだ福島第一原発の事故も収束せず、原因も責任も明らかになっていないのに、今日7月1日から福井県の大飯原発が再稼働します。南相馬市民や福島県民の心を逆なでし、侮辱しています。

### 川崎市「たかつ九条の会」会員が、南相馬市を訪問し、激励!

○川崎市高津区の「たかつ九条の会」(会員800名・代表山本武彦さん)会員8名は、本会事務局長の山崎が川崎市に避難していることから親交が深まり、6月19日南相馬市を訪れ、地震や津波被災の様子を視察されました。○午後、市中央図書館で本会の平田会長と懇談し、会への激励金を手渡されました。○翌20日午前、原発事故で浪江町津島地区から二本松市に避難している被災者たちと懇談し、放射能のことも知らされないまま放置されたり、避難の様子や現在の生活の状況などを直接お聞きしました。

#### 6月19日(火) <随所で放射線量の測定>

立派な看板です

7:00川崎市高津区溝ノ口を、車2台で出発  
～東北高速道中、**高い放射線量に驚く**。二本松 IC  
～JR 二本松駅で二上英朗さんが同乗してガイド  
～計画避難で無人の飯館村を通過、**放射線2.7μシーベルト**。



天井にまだ津波が...

13:30南相馬市役所で小高区の志賀さんも同乗してガイド  
～錦町の「はらまち九条の会」立看板を見学、**記念撮影**。  
～鹿島区の海岸線から南下、渋佐の瓦礫の状況や  
原町区津波で被災したヨッシーランドを見学し黙祷する。



**「津波のモニュメントとして保存してはどうか」という意見が多かった。**  
～20\*.圏内の小高区の町並み・JR 小高駅・村上海岸へ。  
～小高区の被災家屋を見て、「**低い放射線量なのに単純な同心円で警戒区域に指定され、1年以上の放置で自宅が住めなくなった**」と政治判断の誤りを感じる。

本当にひどい

15:00ごろ南相馬市原町区に戻り、JR 原ノ町駅前の市中央図書館で開催の「復興ビジョンのための南相馬百年写真館」(企画:二上英朗氏)を見学。  
「はらまち九条の会」平田会長と意見交換し懇談。**会への激励金をいただく。**



あんなに丁寧な人はいません

16:30ごろ南相馬市を出発し飯館村を通過。無人の村なのに**交通量の多さに驚く**。  
18:30なんとか台風の大雨を免れて、宿泊地二本松市岳温泉「光雲閣」に到着

がんばりましょう  
山本代表

#### 6月20日(水) 9:00 岳温泉「光雲閣」を出発

10:00から 二本松市の福島県男女共生センターで、高い放射線量の浪江町や浪江町津島地区からの避難者8名との懇談会。  
<避難者は、山崎の浪江高校津島分校の61歳の教え子たちです>



- 両親は満州の引揚者で入植した。スピーデイの発表もなかった。すべてを失って先も見えない。先生、私たちどうすればいいのでしょうか。(菅野さん)
  - 3月11日夜、浪江町の如水会館に双葉町民を避難させるための数十台のバスが来ていて驚いた。浪江町にはその後も何の連絡もなかった。(紺野さん)
  - 酪農が40年で軌道に乗り息子夫婦も跡を継いでいた。しかし我が子のように可愛いがっていた乳牛を40頭、結局は薬殺した。悔しい。(小曾根さん)
  - 震災後避難した混乱もあり、87歳の母を急死させてしまった。(広野さん)
  - 日山(天王山)の麓で酪農をしていたが、すべてだめになった。(鴨原さん)
  - 震災翌日の12日、津島の実家に浪江の親戚35人が避難してきて毎食2升半の米を炊いた。仮設住宅がひどく粗末な造りで2年もたない。(紺野さん)
- 避難者の悲惨な状況に励ます言葉もなく、一同涙する場面もあり、ここまで追い込んだ東京電力や国・政府への憤りを新たにしました。**



また、元気で会いましょう!

11:30 二本松市出発 ~18:00川崎市高津区溝ノ口に無事帰着

# 被災地を視察

川崎市のたかつ九条の会、南相馬市訪問

川崎市高津区のとが

つ九条の会（平田慶隆会長、会員

（山本武彦 四百二十四人）の事務

局長で川崎市に避難

八百人は、南相馬市を訪

十九日、南相馬市を訪

た。原町区波佐海岸のが

問し大震災

・原発事故

れきの山、津波で多く

の影響を視察した。

はらまち九条の会

（平田慶隆会長、会員

四百二十四人）の事務

の入所者が犠牲になっ

たヨッピーランド、警

戒区域だった小高区の

倒壊家屋、村上海岸な

どを視察、放射線量も

測った。市中央図書館

では、南相馬市出身の

二上英朗さんが企画し

た「復興のための南相

馬百年写真館」を見学、

平田会長に激励金を手

渡した。

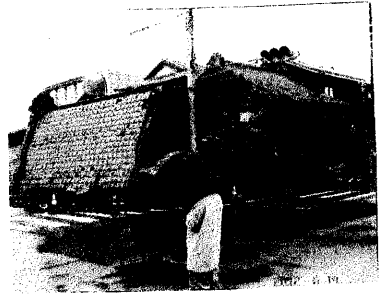
二十日は二本松市の

男女共生センターで浪

江町津島地区からの避

難者八人と懇談した。

▲2012年6月27日付『福島民報』相双版より



○20\*圈内に入り、小高地区の死んだ商店街や崩れた屋根く  
写真>や駅を見て、こんなことになっても誰も責任を取らない  
とは、日本は一体どうなっているのでしょうか。また二本松で山  
崎さんの教え子さんたちに避難のお話を伺いました。「これからの  
暮らしをどうしたらよいか、仮設で不便な生活だが帰ることもで  
きない」静かな語りの中に政府の無策への怒りが伝わってきまし  
た。山崎さんが「大事なことは自分で決めるしかない。こんなに  
良い連れ合いがいるのだから、きっと生活は開けるよ」と、涙を  
浮かべて語ったことが忘れられません。（代表・山本武彦さん）

○川崎市高津区の溝ノ口を出発する時 0.052 μシーベルト程度だった線量計の数値は、東北自動  
車道を北上するにつれて上昇し始めた。那須で 0.425、郡山で 0.565、しかしこれは序の口。飯館  
村では遂に1を超えてしまった。二本松市で、山崎さんの教え子さんたちのリアルな被災体験は、  
涙なしには聞けなかった。「私たちはどうしたらいいんでしょう」という問いかけに、何も答え  
られない自分の無力さが情けなかった。やはり、脱原発にむけ川崎の地でがんばる以外にないの  
だろう。本当に充実した見学と訪問になりました。（小磯豊四郎さん）

○私は被災地の南相馬市へ行ってみて、「頑張りましょう」とは言えない重い気持ちになりました。家  
族を失った方、家族がばらばらの生活、親たちも自分たちも苦勞して築き上げた酪農や田畑をだめに  
された憤り、悔しさと怒りを誰にぶつければいいのか！これまでのヒロシマやナガサキの原爆やチェ  
ルノブイリなどの放射能事故から国は、何も学んでいないと思います。案内者の山崎さん、二上さん、  
津波に襲われた自宅を案内して辛かったはずの志賀さんに心より感謝しています。（速水勝広さん）

○私は川崎で大気汚染公害で「ぜん息」になった患者の救済や「公害をなくす」運動をしていま  
す。浪江町津島地区の方々と懇談した6月20日に、国会で「原子力規制委員会を設置する法案」  
が可決され、東電の事故調査の結果も発表されました。大変がっかりの内容です。でも、原発や  
地震で被害にあわれた皆さんと話ができ、被害の実態を直接体で感じる事が出来ました。3.  
11のまま時間が止まってしまっている小高の町も衝撃的でした。

「憲法九条を守ろう」の一点で全国的な運動があったればこそ、「被災地を訪ねよう」の企画が出来  
ました。個人的には皆さんの生活など現実的な対応については答えを見出せませんが、憲法や九条を  
生かす運動は「脱原発」へと国民の力の結集が図られると期待をし私も頑張ります。そして「被災者  
の救済」をという点で「政治」の果たす役割が問われていると感じてきました。（竹内 勝さん）

○南相馬市小高区の「小高九条の会」の事務局長中里範忠さんも、ご自宅は小高区川房なので埼玉県  
三郷市で避難生活を送り、集落の情報紙『川房通信』を29号まで発行され、テレビや新聞や外国  
メディアでも紹介されています。○そして中里さんは、これまで何回も被災地の様子を三郷周  
辺でお話しされていますが、7月3・4日、三郷市の人々24人をマイクロバスで南相馬市に引率  
し被災の現場を見て頂きました。皆さんは「現地を見て本当に良かった」と話されているそうです。

○実は「九条の会」で被災現場を巡る会の先鞭を切ったのは、被災一周年の今年3月10・11日「相双地区の  
九条の会」共催の「蓮池透講演会+ジャズヒケシin相双」です。全国から大勢お招きし、今でも賞賛されています。



「誰も責任を取らない日本はどうなっているのか」  
被災地の南相馬市を訪ね、被災者と懇談して思うこと  
○川崎市「たかつ九条の会」の皆さんより一言○

